

徳山工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	国語総合 I
科目基礎情報					
科目番号	0008	科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 4		
開設学科	土木建築工学科	対象学年	1		
開設期	通年	週時間数	4		
教科書/教材	テキスト: 「精選国語総合」(東京書籍) / 副教材: 「精選国語総合」学習課題ノート, 「ビジュアル 国語便覧」(大修館書店), 「新しい常用漢字」(数研出版)				
担当教員	柏倉 知秀, 森山 和子, 江後 一男				
到達目標					
"ことば"を意識し、考えながら文章を読むことができるようになる。また、国語辞典を積極的に活用して、語彙力をつける。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1 語句の理解と読解	本文中に使用されている語句の意味や用法を正しく理解し、文章の構成や展開や描写を意識した作品読解をすることができる。	本文中に使用されている語句の意味や用法を正しく理解し、作品読解をすることができる。	本文中に使用されている語句の意味を正しく理解しているが、作品読解をすることができない。		
評価項目 2 自らの意見をことばで表現し、他者に伝える	作品に対しての感想や意見を持つことができ、それらを自らの言葉で表現し、他者に的確に伝えることができる。	作品に対しての感想や意見を持つことができ、それらを自らの言葉で表現することができる。	作品に対しての感想や意見を、自らの言葉で表現することができない。		
評価項目 3 音読を通しての理解	文のリズムを意識し、言葉の意味を理解しながら音読をすることができる。	適切に音読をすることができる。	適切に音読することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
到達目標 A 2					
教育方法等					
概要	柔軟なものの見方や考え方ができるように、古典と現代の作品を読み学習していく。また、作品を読解する中で、"ことばの持つ力"を意識して感じ取っていく。				
授業の進め方・方法	現代文と古文(漢文を含む)の分野を交互に扱い、授業を進めていく。現代文の分野では、適宜グループワークを取り入れていく。古典の分野では、読解のために古典文法の基礎を学習する。授業の予習復習として、「学習課題ノート」の活用をする。漢字と言葉の学習は、テキストを用いた自宅学習を基本とし、確認テストを原則毎授業時に実施する。				
注意点	国語辞典(電子辞書可)を、携帯しておくこと。 成績評価式: 最終評価 = 定期試験 8 5 % (4回の平均) + 漢字確認テスト 1 0 % (全実施テストの平均) + 課題 5 %				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス: 授業内容と授業の進め方について 小説(1)	シラバスをもとに、授業内容や到達目標が理解できる。 コラム「小説の読み方」を通読し、小説とは何かを知ることができる。 吉田修一「ドライ・クリーニング」を通読し、文中に使用されている語句の意味を正確に理解することができる。	
		2週	小説(2)	物語を精読し、全体の構成と登場人物の特徴を分かりやすくまとめることができる。	
		3週	小説(3)	描写と人物の心情の変化を整理し、物語の展開を説明することができる。	
		4週	古文入門(1)	古文読解の基礎となる古語と現代語の差異、歴史的仮名遣いを理解することができる。品詞の種類と活用形を理解する。	
		5週	古文入門(2)	「絵仏師良秀」(『宇治拾遺物語』)を音読し、歴史的仮名遣いを確認する。また、現代語訳を通して、古語と現代語の違いを理解する。	
		6週	古文入門(3)	「絵仏師良秀」の読みを通して、用言とその活用を理解する。	
		7週	古文入門(4)	「神無月のころ」(『徒然草』)の読解を通して、筆者の視点を読み取ることができる。動詞、形容詞、形容動詞を理解することができる。	
		8週	中間試験 中間試験の返却と解答解説	前期第1週～7週の内容を範囲とする。 中間試験の解答と解説を通して、ここまでの学習の理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	評論(1)	コラム「評論の読み方」を通読し、評論とは何かを知ることができる。 山崎正和「水の東西」を通読し、評論文の読み方を理解することができる。本文中の語句の意味を正しく理解することができる(積極的に国語辞典を活用する)。	
		10週	評論(2)	本文中に使用されている語句の意味を正しく理解することができる(積極的に国語辞典を活用する)。本文の読みを通して、全体の構成を把握し、各段落のキーワードを見つけることができる。	

後期	3rdQ	11週	評論 (3)	本文を再読し、筆者の述べる論点を正確に読み取りことができる、また、筆者の主張に対して、コメントをすることができる。		
		12週	歌物語 (1)	『伊勢物語』の文学史での位置づけを理解する。「筒井筒」を音読し、口語訳をすることができる。		
		13週	歌物語 (2)	「筒井筒」の歌に読み込まれた人物の心情を読み取り、読みを深める。		
		14週	漢文入門	漢文読解の基礎となる、訓読を理解する。練習問題を通して、理解を深める。		
		15週	期末試験	前期第9週～14週の内容を範囲とする。		
		16週	答案返却など	返却された期末試験の結果をもとに振り返りをし、後期に向けた習得したい目標を立てることができる。		
	4thQ	3rdQ	1週	寓話	「塞翁馬」の読みを通して、漢文の読み方に慣れ、内容を理解する(口語訳)ことができる。	
			2週	史話	「臥薪嘗胆」を音読し、内容を理解する(口語訳)ことができ、人物の心情にコメントできる。	
			3週	評論 (1)	内山 節「時間と自由の関係について」を読み、本文中の語句の意味を正しく理解し、全体の構成を把握して各段落のキーワードを見つけることができる。	
			4週	評論 (2)	筆者の述べる論点を正確に読み取ることができ、筆者の主張に対して、コメントをすることができる。	
			5週	小説 (1)	村上春樹「鏡」を読み、物語の内容を読み取る。	
			6週	小説 (2)	村上春樹「鏡」を精読し、表現の特徴や人物の心情をつかんで説明できる。	
			7週	中間試験 中間試験の返却と解答解説	後期第1週～第6週の内容を範囲とする。中間試験の解答と解説を通して、ここまでの学習の理解度を確認する。	
			8週	評論 (1)	福岡伸一「生物の多様性とは何か」を読んで、本文中の語句の意味を正しく理解し、全体の構成を把握し、各段落のキーワードを見つけることができる。	
		4thQ	4thQ	9週	評論 (2)	筆者の述べる論点を正確に読み取ることができ、筆者の主張に対して論理的にコメントをすることができる。
				10週	軍記物語 (1)	「木曾の最期」(『平家物語』)を読んで、口語訳し、物語の流れを理解する。
11週	軍記物語 (2)			「木曾の最期」における、人物の心情や生き方を読み取る。		
12週	軍記物語 (3)			「木曾の最期」の読みを通して、敬語について理解を深める。		
13週	和歌 (1)			『万葉集』の特徴と、文学史での位置づけを理解する。取り上げる歌の意味を正確に読み取ることができる。		
14週	和歌 (2)			『古今和歌集』の特徴と、文学史での位置づけを理解する。取り上げる歌の意味を正確に読み取ることができる。		
15週	期末試験			後期第8週～第14週の内容を範囲とする。		
16週	期末試験の返却と一年間の振り返り			期末試験の結果をもとに、一年間の学習を振り返り、来年度の学習の目標を立てることができる。		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
			論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるることができる。	3	
			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるることができる。	3	
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	1	
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	
新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2				

評価割合					
	試験	漢字確認テスト	課題	グループワーク	合計
総合評価割合	85	10	5	0	100
総合的能力	85	10	5	0	100